

『源氏物語新釈草稿』



函架番号 E-14。縦 27.5cm×横 19cm。袋綴。楮紙。題簽なし。中央に題簽の剥落跡あり。紺無地紙表紙。表紙右に朱筆直書で「真淵翁手澤本」、その下に「河邊一也奥書」。一丁表右上「ノートルダム清心女子大学図書之印」、右下、右から「富□館収蔵記」「黒川真道蔵書」「黒川真前蔵書」の朱陽印。

末摘花巻のみの残欠本。河邊一也（1802—1869）が裏表紙見返し識語に、末摘花・葵・賢木・花散里・蓬生の5巻が、賀茂真淵→源磐村→源顕祖→河

辺一也と伝来したことを記す。本そのものは『湖月抄』版本であるが、賀茂真淵の書き入れが大量になされている点、注目される。国文学研究資料館寄託田安家伝来書にも真淵書き入れ『湖月抄』があるが、その前段階の書き入れである。識語にある他の4巻（葵・賢木・花散里・蓬生）は、龍門文庫に伝わっており、HP解題に「末摘花は所在不明」と記載される。当該本はまさにこの所在不明とされてきた1冊と見て間違いない。

（文学部日本語日本文学科 准教授 新美哲彦）